FoodLife

2014 第7号
Vol.32 No.2
フードライフ第三十二巻第二号
平成二十六年七月十日発行通巻三六三号

特集 最強! PIZZA

スイーツ最前線
Sweets FrontLine

安川哲二の今月の一品　乃木坂神谷の十二ヶ月

気になる？ 北京、日本酒事情

北京に行ってきた。

今回は少し趣向を変えて、北京の日本酒事情をお伝えしたい。

昨年、日本酒輸出は100億円を超えた。國酒プロジェクトやクールジャパンなど国の後押しがあり、ユネスコ世界遺産となった和食も日本酒人気に拍車をかける。

欧米の大都市では高級日本酒がプレミア価格で飲まれ、アジアでも消費量の急激な右肩上がりをみせ、韓国には『日本酒きき酒師』養成の専門学校までできた。

中国はどうか。

首都北京。一週間ほどの滞在で、まずは（日によるらしいが）思いのほかPM2．5の影響が少ないことと治安がいいことに驚いた。

和食店は増加し、まるで銀座にあるような高級寿司店やSAKEダイニングといった清潔でオシャレな店が目に付く。高級店では「獺祭」「梵」などがワインセラーで管理され、ワイングラスで供される。720mlで750元～1500元。日本円で12，000円～24，000円。

今回、中国人や在北京邦人の方々向けに『日本酒ナビゲーター取得セミナー』を開催したが、会場の和食店「sake MANZO」は、直輸入する品質管理の行き届いた20歳ほどの銘柄を720mlで480元（8，000円）～、グラスで30元（500円）で提供する。セミナー後の営業時には、100席の広い店内が早々と満席になり、2～3回転する人気ぶりだ。

高級百貨店ばりのイトーヨーカドーでは、温度管理はされていないものの、現地製造の「松竹梅」や「月桂冠」など大手銘柄のほか、山形の地酒「六歌仙」が並べられている。3・11以降東北酒の輸入制限があるなかで、制限外の山形酒は健闘しているようだ。720mlで400元（6，400円）弱。

一般市民が利用するスーパーには日本酒は皆無。北京で主となる焼酎「白酒（バイジュウ）」が色とりどりに並べられている。安いものだと500mlで200円。レストランで10年熟成など高級品を注文しても3，000円程度だ。かなりの差がある。ちなみに市場で手に入れた「特撰本醸造　葵天下」、静岡県の山中酒造の銘柄だけど、ボトル裏面の中国語表示を見ると江蘇省にある現地メーカーが製造し、商標登録もされている。はてと不思議な気持ちで飲んでみると、一昔前の調味された合成酒に似たような味がした。これも北京の日本酒事情だろうか。ちなみにこの酒が売られている酒屋の主人は、「獺祭でも梵でも、注文があればすぐ取り寄せる」という。まぎれもなく並行輸入。

日本の洋酒輸入の歴史を振り返れば、いつか来た道、なのかもしれない。